

実習報告（関係機関実習）

教育事務所の組織・運営や学校支援の状況について

野崎 愛子（教育経営探究コース：現職教員）

【探究実習のテーマと設定の理由】

学校現場を取り巻く環境の複雑化・困難化により、学校に求められる役割は拡大・多様化し、学校が抱える教育課題は個々の教員の創意工夫や努力では解決が困難な状況である。また、教員の多忙化が進むとともに、教員の大量退職時代を目前に控えた課題も多く、協働体制の構築が重要となってきた。現任校でも様々な課題を抱える中、授業改善に重点を置くことで学校を変えようと取り組んでいる。しかし、この取組が教師の「やらされ感」や「疲労感」にならないようにするには、教職員の「協働」への意識変革と、そのカギを握るミドルリーダーの意識の向上が必要あると考える。大学院2年間を通した研究テーマは、「多忙な中にも疲労感を少なくする教職員の協働に向けて、ミドルリーダー育成の在り方を考える」である。本研究では、学校活性化委員会を立ち上げて校内研修の在り方を再考し、授業改善への「協働」を通して、教職員の教育活動への達成感や学校経営参画意識の向上を図ることを目指す。そこで、探究実習の研究テーマを、「ミドルリーダーの意識の向上と教職員の協働に関する研究～校内研修の在り方を通して～」とした。

【探究実習の研究目標】

実習では、西部教育事務所及び東部教育事務所において、管内の子どもたちの教育のためにどのような組織・運営や学校支援がなされているのかを学び、教職員の多忙化解消、「チーム学校」の推進、学力向上の対策等についての知見を得て、来年度の学校変革試行実習の参考とすることを目標とした。実習での期待する学びについては、次のとおりである

① 各学校の取組、教育事務所の学校支援について

県内の学校が、分かる授業の構築の手立て、研究授業の参観の視点や研修会のもち方、研究部会や分科会の取組方法や実施の工夫、校内研究の活性化の方法や教職員の意識の高め方、その核となるリーダーの育成、などにどのように取り組んでいるのか、について学ぶ。また、教育事務所がそれらの学校の取組をどのように支援しているのか、について学ぶ。

② 所内連携、市町教委との連携について

学校支援を行うために教育事務所内でどのように連携をしているのか、各市町の特徴的な教育施策はどんなものがあるか、各市町の教育委員会とどのように連携されているのか、について学ぶ。

【探究実習の概要】

実習の概要は、【表1】の通りである。特に実習の目標と関連のあった内容を以下に示す。

① 各学校の取組、教育事務所の学校支援について

小学校の校内研究支援、中学校の無言掃除の取材、中学校の朝の挨拶運動、地区教科等研究会（道徳）の授業参観と研究協議会、中学校4校の学校訪問などを体験した。

② 所内連携，市町教委との連携について

学力向上班研修，学校訪問の打合せや反省会，所内研修，等での意見交換や演習，普段の所内の観察を通して，所内連携を体験した。また，学校訪問において市町教委との連携の様子を観察した。

【探究実習の成果と課題】

本実習を通してたくさんの方と話をさせていただき中，学校活性化委員会の位置づけや校内研修のスタイルなど，具体的に考えることが

できた。「教職員の協働」の研究にむけて，この実習の成果と今後の課題を以下に示す。

(1) 校内研修の活性化に向けて

学校訪問での授業参観においては，学校規模に関わらず保証されなければならない一人一人の学びがあることを実感するとともに，「不断の授業改善」の意味と必要性を再認識することができた。また，校内研究については，実態把握，課題の共有化，「授業のUD化」「学び合い」などの研究手段の決定，教科の壁を越えて取り組む内容の焦点化，実践・検証といった，PDCAサイクルの流れを押さえた各学校の取組を学ぶことができた。研究協議については，拡大指導案に付箋を貼る方法や「ワールドカフェ」方式など，今後の実践のヒントを多く得た。また，所員の方が学校訪問時の授業について記入される付箋コメントや後へと続く支援の様子に，「支え合う教師」の在り方についても考えることができた。今後，現任校で校内研修の活性化を行うために，校内活性化委員会がどのような機能をもち，どのような役割を担えばよいのか等を，具体的に考えていくことが課題である。

(2) ミドルリーダーの意識向上に向けて

東部教育事務所主催で行われている勉強会では，会の企画・運営によるミドルリーダーの意識向上とそこでの学びによる次期ミドルリーダー育成が図られていることを知り，会に方向性を与えていくのがリーダーの役割であるということを知った。また，校内研究において，リーダー育成を図るとともに実践の共有化を図る1つの方法として，各学年の次期ミドルリーダーに学年テーマ設定を任せ，夏休みの全体研修の場で1学期の成果をプレゼンさせるという案を教えていただいた。今後，このようないくつかの案を考え，現任校で実践可能であるかどうかを探ることが課題である。

(3) 教職員の協働に向けて

実習を通して，教職員の協働づくりやミドルリーダーの育成を目指すことは，単なる職員室の改善ではなく，学校組織マネジメントを行い「チーム学校」をつくっていく変革につながるということを再認識することができた。今回，各学校の学校組織や校内研究組織に学んだり，所内での日常の連携の様子を見たり，パソコンによる情報共有などの具体策について知ったりしたことは，今後の研究の参考になった。またOJTの視点から，ベテラン教員に校内研の講師を依頼し授業の技を紹介してもらうことで若手教員の育成に努めている例，若手教員とベテラン教員でグループを作り学び合う場の設定をする例，校務分掌の主担当を若手に副担当をベテランにする例などや，勤務時間外に校長が若手を集めて話を聞いたりアドバイスをしたりする会を設けた例などの，多くの事例を知ることができた。今後，現任校において，校内活性化委員会を設けて校内研究の活性化を図ることから始め，教職員の協働を目指す取組について研究・実践を深めていきたい。

【表1】実習スケジュール（ただし、○…講義・講話、◎…演習、●…学校支援）

	実習内容		実習内容
西部教育事務所	1日目	東部教育事務所	11日目
	2日目		12日目
	3日目		13日目
	4日目		14日目
	5日目		15日目
	6日目		16日目
	7日目		17日目
	8日目		18日目
	9日目		19日目
	10日目		20日目